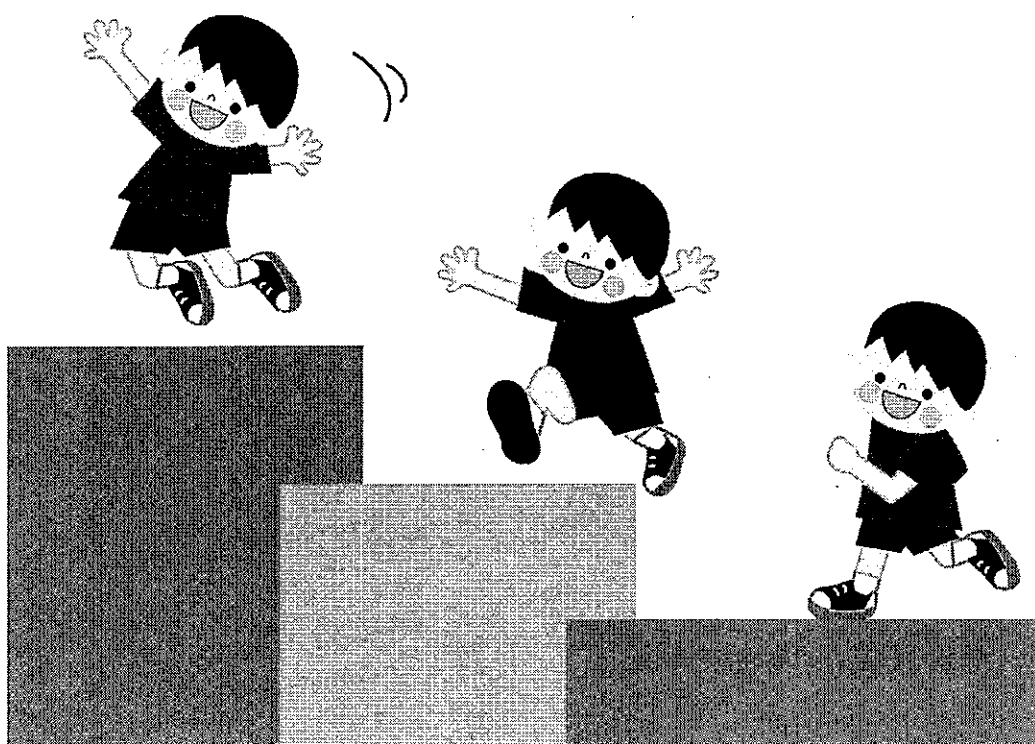


【参考資料】

「確かな学力」の向上のために

平成27年度 改訂版



福島県教育庁県北教育事務所

教室に笑顔を！

県北教育事務所では、意欲的に課題に取り組み、解決する子どもを目指して授業を工夫・改善することにより、子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせ、夢実現に向けて力強く歩むことができるようにしたいと考えています。そのためには、問題解決的な学習を中軸とした授業を充実させることが大切です。

この参考資料では、こうした授業に改善するためのポイントや基盤となることを具体的に表しました。先生方の教室が「わかった」「できた」という子どもたちの笑顔、それを見て子どもの成長を喜ぶ先生方の笑顔でいっぱいになる授業づくりの資料として、活用していただければ幸いです。

目 次

1	問題解決的な学習の基本過程	・・・	1
2	問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために		
○	授業づくりのポイント一覧	・・・	2
	ポイント1		
・	単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構 想の工夫	・・・	3
	ポイント2		
・	ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切に しながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計	・・・	5
	ポイント3		
・	必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをも たせる工夫	・・・	7
	ポイント4		
・	思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実	・・・	9
	ポイント5		
・	思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上	・・・	11
	ポイント6		
・	学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実	・・・	13
3	学習基盤づくり		
○	学級・学習集団づくり	・・・	15
○	主体的な学習につながる基盤づくり	・・・	17
○	一人一人の子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～全ての学級に生かせる特別支援教育の視点～	・・・	18
○	連続性を意識した幼小中の接続へ ～幼稚園教育の視点から～	・・・	19
○	中高の学びをつなぐための課題と連携の在り方 ～高等学校の視点から～	・・・	20
4	全国学力・学習状況調査の結果を受けて	・・・	22

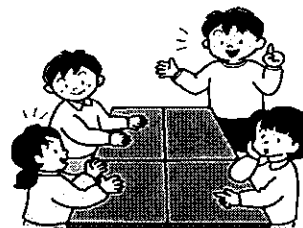
1 問題解決的な学習の基本過程

なぜ今、問題解決的な学習なのでしょう？

学力向上のためには、「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」を育成することが大切です。なぜなら、「この課題を解決したい」「これができるようになりたい」・・・と意欲をもちながら学習に取り組む子どもは、自分のもてる力を駆使したり、友達と知恵を出し合ったりして課題を解決する過程で、時にはそれまで以上の力を発揮するからです。こうした学びを可能にするのが「問題解決的な学習」です。これは今までも大事だと言われてきましたが、今改めて授業展開の中軸にすえて充実させる必要があります。

問題解決的な学習のよさ

- ◆ 学ぶことの楽しさや達成感を体得することにより、主体的に学習する態度が養われます。
- ◆ 問題を解決する方法等を学び、他の場面にも活用することができるようになります。
- ◆ 自分で考え調べ獲得した知識や技能は確実に身に付きます。
- ◆ みんなで協力したり、グループで活動したりすることにより人間関係が深まります。



段階	問題解決的な学習の仕方	子どもの見方・考え方の例	関連
課題把握	問題発見 ○ 新たなことに出会いそれまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。	「ここから先は、どうなるのかな」 「～と～が違うのはどうしてだろう」 「～になるのはきつと理由があるはずだ」 「～というきまりがありそうぞ」 「できる、できる、あれ？今までと違うぞ」 「～しないで問題を解くなんて、できるのかなあ」	p.7 p.8
	見通し ○ 既習事項や生活経験を基に見通す。 ・ 解決の方法を見通す。 ・ 答えの見当をつける。 ・ 調べる視点をもつ。 ・ 学習活動の筋道をもつ。	「～の方法でやれば、できるかもしれない」 「答えは～となるはずだ、確かめてみよう」 「～のように調べれば、何か決まりがみつかるかも」 「きつと～じゃないかなあ」 「このあたりから調べると分かるんじゃないかなあ」 「前に～と調べてきたから、同じように～してみよう」 「わたしだったら～する」	p.7
課題解決	自力解決 ○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。 ・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。 ・ 自分の考えをもつ。 ・ 試しにやってみる。 ・ うまくいかないところを修正する。 ・ 分かったところと分からないところを整理する。	「使えそうな資料はないかな」 「教科書をよく読んで、大事なところに線を引いてみよう」 「言葉の意味を辞書で調べてみよう」 「前にやったことをノートで見てみよう」 「まず、こうやってみよう」 「わたしは、こう思うな」 「図や表に表してみよう」 「説明できるように、言葉に表してみよう」 「ここまでではできたけど、ここから先がわからない」 「～を使ったけどうまくいかない、もう一度見直してみよう」 「できた！他のやり方でもできるかな？やってみよう」	p.9 p.10
	思考の共有と吟味 ○ 課題解決に向けて話し合い、思考を共有する。 ・ 友達の考えをよく聞く。 ・ 自分と違う考えを理解する。 ・ 解決方法の内容を理解する。 ○ 思考を吟味する中で課題解決する。 ・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。 ・ 規則性を見付ける。 ・ 自分の考えを見直して再構築する。 ・ より分かりやすい表現にする。	「○○さんの考えとぼくの考えは同じだ」 「△△さんの意見は、～が同じで、～が違う。なぜだ？」 「□□さんに続けて言うと～ということになります」 「こういう考えもあるんだな」 「それはどういうことですか？」 「そういう意味か」 「こういう理由だったのか」 「～と～は、ここにつながっているのか」 「～をずっと見ていくと～というきまりがある」 「なるほど、～は～ということか」 「～は、～と表すともっと分かりやすいと思う」	p.11 p.12
振り返る活動	適用・まとめ・評価 ○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。 ・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。 ・ 分かったことを広げて考えてみる。 ・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。	「あの言葉とこの言葉をつなげて、まとめてみよう」 「話したことをかいてみよう」 「今日分かったことは、～にもつながっているね」 「さっきの考え方を生かして問題をやってみよう」 「ねえ、どうしてこうなるの？」 ※ 授業によっては適用をまとめの前にもあります。	p.13 p.14

2 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

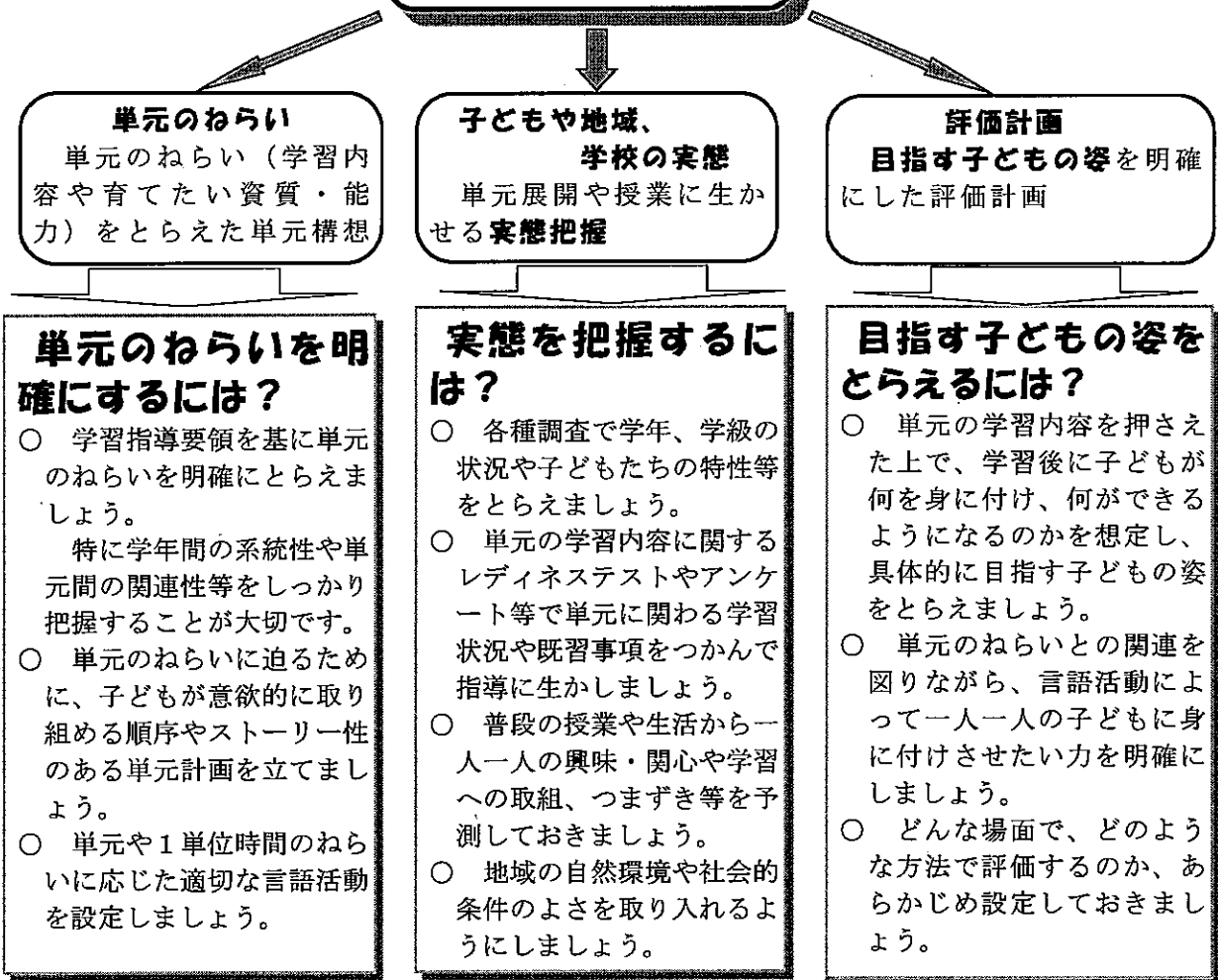
授業づくりのポイント一覧

先生方が日々の授業を振り返る際や校内研修の資料としてご活用できるように、「授業づくりのポイント」を示しました。詳しい内容については、冊子の該当ページをご覧ください。
また、自己の重点の欄は、日々の授業や校内研修等で重点を定めて取り組む際に、ご活用ください。

大項目		細目	授業づくりのポイント	ページ	自己の重点
単元構想	単元	単元のねらい	① 単元のねらいをとらえた系統性や関連性等のある単元を構想する。	P. 3 P. 4	
		実態把握	② 普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行う。		
		評価計画	③ 目指す子どもの姿を具体的にとらえ、指導に生かせる評価計画を立てる。		
授業設計	本時	整合性	④ 単元のねらいから本時のまとめまでの整合性を図る。	P. 5 P. 6	
		手立て	⑤ 子どもが課題をもち、解決に取り組むための具体的手立てを講じる。		
		板書計画	⑥ 子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画を立てる。		
指導	学習課題	設定	⑦ 子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定する。	P. 7	
		見通し	⑧ 子どもたち自ら解決の見通しをもてるように、課題解決の方法や調べる視点等をもたせる。	P. 8	
	働きかけ	発問	⑨ 考える視点や方法、手がかりを明確にもたせるとともに、思考を促す発問を行う。	P. 9 P. 10	
		見取り	⑩ 適切な机間指導により、子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かす。		
		支援	⑪ 一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じる。		
	学び合い	コーディネート	⑫ 個々の考えの見取りを生かして、子どもの発言をつなぐ働きかけを意図的に行う。	P. 11 P. 12	
		交流活動	⑬ 課題解決に向けた話し合いを行う中で、一人一人の考えを共有・吟味する。		
		グループ活動	⑭ グループ活動では、目的を明確にしてそれに合った活動を取り入れる。		
	学習のまとめ	振り返る活動	⑮ 課題との整合性を意識しながら、学習内容の定着を図る「振り返る活動」を行う。	P. 13	
		ノート指導	⑯ 学習を振り返ることができるノートになるよう、適切な指導を行う。	P. 14	

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、 系統性を図った単元構想の工夫

単元構想の3つの視点



**ぜひ、参考
にしてください！**

・小中学校学習指導要領解説（文部科学省）

・評価規準の作成評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）

単元計画を立てるときのポイント！！

教材研究により教材を吟味し、学習内容・方法等を工夫し、単元を構想します。

【具体的な教材研究】

- ・教材の選定
- ・教材の解釈、分析
- ・教材と身に付けさせたい力の関連
- ・単元での教材活用（何を、いつ、どこで）
- ・他教材との比較 等々

【ねらいに迫るための言語活動】

- ① 子どもの実態、身に付けさせたい力を明確にする。
- ② 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動を選択する。
- ③ 言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
- ④ 思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

学習内容の構造化と焦点化

学習内容の構造化と焦点化を図らないと、実際の授業では学習内容が絞りきれずに、教師主導になってしまいます。構造化と焦点化のヒントは、学習指導要領解説の中にあります。

例えば、中学校社会科（歴史的分野）では、ねらいが「○ ○、○○などを通して、AがBであったことを理解させる」という学習の構造や焦点を明確にした表現になっています。AとBに深く関わる内容ほど十分な時間をかけて学習活動を工夫しましょう。

子どもが意欲的に取り組むストーリー性のある単元構想

＜中学校社会科(歴史的分野)の例＞ ☆ 歴史の大きな流れを理解することが大切です！

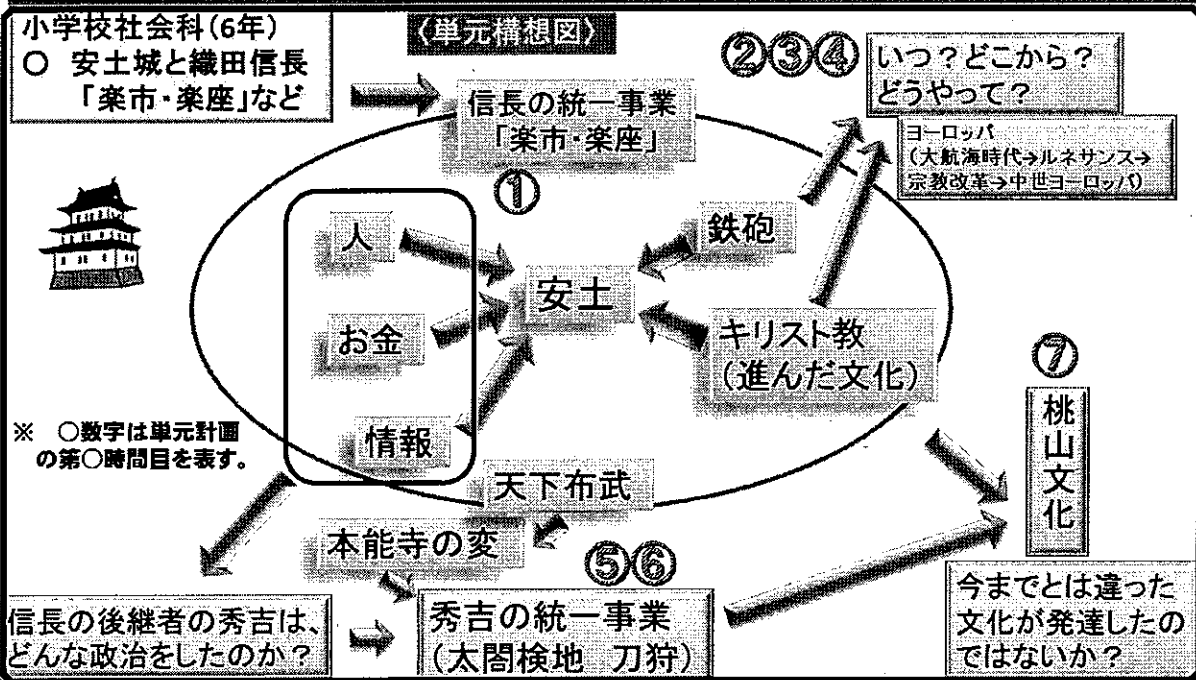
歴史的分野の学習では、学習内容の構造化と焦点化により、歴史の大きな流れを理解させることが大切です。焦点化された教材で「歴史の大きな流れ」を理解した生徒は、興味・関心が高まり、細かな学習事項についても意欲的に身に付けようとしていきます。

生徒は、歴史の大きな流れの中の事象に出会うことにより、追究意欲が高まったり、見通しをもったりする時があります。その意識を生かして、ストーリー性のある単元展開を構想することも可能です。その一例を紹介します。

- 単元名「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」
- 単元のねらい
戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の発展などを通して、近世社会の基礎がつけられていったことを理解することができる。

この単元では、秀吉の太閤検地、刀狩の政策等により、近世社会の基礎(知行制や兵農分離)ができたことを理解できるようにする。

本単元の1時間目に、信長が安土を楽市・楽座にしたことにより集まった人材・情報・金・鉄砲等が天下布武に大きく影響したことを学習する。その上で、「これから学習したいこと」を話し合うことにより、ヨーロッパや秀吉の業績に目を向け、単元の見通し(ストーリー性)をもつことができるようにする。



○ 単元計画

	主な学習内容・学習課題
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入(信長の統一事業) 「信長が安土を楽市・楽座にしたのはなぜか。」 ○ 単元の学習計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄砲やキリスト教はどこから? ・ ヨーロッパで何があったのか? ・ 信長の後継者秀吉の政治とは? ・ 信長、秀吉の頃の文化は?
②	○ ヨーロッパ人との出会い 「どこから鉄砲やキリスト教が日本に伝わったのか。どんな影響があったのか。」
③	○ ヨーロッパと外的世界 「ヨーロッパ人はどんな目的で世界に進出し、どのような影響を与えたのか。」
④	○ キリスト教世界とルネサンス 「なぜヨーロッパ人が大航海できるようになったのか。そのころのヨーロッパはどんな社会だったのか。」
⑤	○ 秀吉の統一事業
⑥	「秀吉はどのようにして天下を統一したのか。」
⑦	○ 桃山文化 「桃山文化はどんな文化なのかな。」

生徒の信長に対する興味・関心は非常に高いので、単元の導入として扱い、生徒から出された疑問から単元の学習計画につなげる。

鉄砲とキリスト教伝来について写真や地図等の資料を活用し、当時の人々の驚き等の様子やその後の社会に与えた影響の大きさを実感できるようにする。

写真資料等を活用し、ヨーロッパ人の世界進出を可能にしたルネサンスや日本へのキリスト教伝来に深く関わる宗教改革について学習する。

コロンブス、ガマ、マゼランや香辛料等の資料を活用して、ポルトガルのアジア進出やスペインの南アメリカ等への進出について学習する。

秀吉が行った太閤検地と刀狩りの資料を活用し、近世の基礎ができたことを学習する。また、写真資料を活用し当時の文化について学習する。

<授業づくりのポイント2-1>

**ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、
目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計**

☆ **指導構想の整合性は？**

単元のねらい

学習指導要領から単元の学習内容や育てたい資質・能力を明らかにする。それを教科に応じた観点で表し単元の目標を明確にする。

本時の目標

単元のねらいと関連させて**目指す子どもの姿**と主な手立てを示す。
 (例)「～(学習内容)～について、～(手立て)～により、
 ～(目指す子どもの姿)～することができる。」

本時の課題

本時の目標と直結し、子どもにとって**学ぶ必然性のある課題**を設定する。

学習活動・内容

学習課題を解決するための学習活動・内容及びその手立てを位置付ける。

学習評価

本時の目標について評価する。具体的な子どもの姿を明確にした評価規準を作成する。

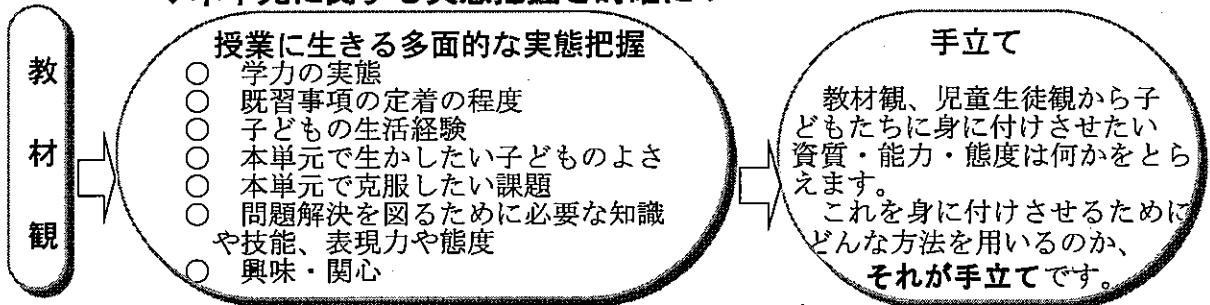
まとめ

本時の課題に対するまとめを明確にする。

行きつ戻りつ整合性をチェック

☆ **本時のめざす姿を具現するための手立てとは？**

◆ **本単元に関する実態把握を的確に！**



<手立てが必要な場面>

<導入>

- A 学習課題の設定
- B 課題解決の見通し

<展開>

- C 課題解決能力を伸ばす個に応じた働きかけ (自力解決)
- D 思考の「共有」と「吟味」 (学び合い)

<終末>

- E 学習を振り返る活動



<手立ての例>

<導入>

- 意欲を高める課題設定
 - A 具体物(実物)の活用
 - A 実演の提示
 - A ICTの活用
- 既習内容を活用した課題設定
 - A 体験活動の活用(見学や取材活動等)
 - A 統計、写真等の資料の活用
 - A 既習の振り返りから未習へ
- 課題解決の見通し
 - B 既習内容や既有経験の活用
 - B 答えの見当

<展開>

- C 座席表等を活用した見取り
- C つまずきに応じた支援
- CD 考えの交流を図る学習形態(ペア、小グループ等)
- D 子どもの思考を促す発問
- D 子どもの考えや発言をつなぐ教師のコーディネート
- D 子どもの発言を生かした構造的な板書の活用

<終末>

- E 目標の達成状況をみる適用問題
- E キーワードや板書を活用した本時のまとめ
- E 自己評価表の活用や視点を明確にした学習感想の記入

【手立ての基本型】

～(具体的手立て)～
により

～(目指す姿)～
ようにする

(P.6参照)

整合性と手立て…授業案のここがポイント!

☆ 授業案において、単元のねらいからまとめまでの整合性が図られていて、具体的で明確な手立てが示されていること、それがポイントです。

＜整合性を見るポイント＞ (授業案例)

1 単元名 「面積のはかり方と表し方」小4算数教科

2 単元について
 (1) 教材観
 (2) 児童観
 (3) 指導観

3 単元の目標
 ○ …… 【関心・意欲・態度】
 ○ 面積は、量や乗法の学習を基に単位の何個分で数値化して表すことや、**辺の長さを用いて計算で求められることを考え、とらえることができる。**
 ○ …… 【数学的な考え方】
 ○ …… 【知識・理解】

4 指導計画と評価規準 (総時数11時間)

次	時	主な学習活動	評価規準
	5	複合図形を分けたり付け足したりして長方形の面積の公式を活用して複合図形の面積を求める。	長方形の面積の公式を活用できるように、複合図形の面積の求め方を考えている。(考え方)

5 本時の目標
複合図形の面積を求めることについて、長方形の面積の公式を活用し、図形を分割したり、付け足したりすることにより面積の求め方を考えることができる。

6 指導過程

学習活動・内容	時	手立ての具体例 ○よい●悪い
1 既習を振り返り、本時の課題をつかむ。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 (2) 課題をとらえる。 どうすれば面積を求めることができるだろうか。		AO 前時の学習を振り返り、その後未習の問題を提示することにより疑問をもたせ、本時の課題をとらえることができるようにする。
2 解決の見通しをもつ。		BO 使えそうな既習事項を振り返り正方形、長方形をもとに考えさせることにより、解決の見通しをもつことができるようにする。
3 自分の考えた方法で面積を求める。 ・3つの長方形に分ける方法 ・横に2つに分ける方法 ・縦に2つに分ける方法 ・大きい長方形から小さい長方形を引く方法		CO 自力解決できない児童を集め、小黒板を使って分割する方法のヒントを与えることにより、自力解決ができるようにする。 CO 面積の加減計算で解決できた児童に対しては、もう一つ同じ複合図形を与えることにより、倍積変形による考え方で解決できるようにする。
4 全体で共有・吟味する。		DO ●子どもたちの考えた方法を画用紙に書かせて黒板にはり、それぞれの考え方を共有・吟味する。
5 本時を振り返る活動をする。 (1) 学習内容をまとめる。 分けたりつけたりして長方形にすれば、公式を使って面積を求めることができる。 (2) 適用問題に取り組む。		EO 板書のキーワードをもとに学習内容を振り返らせ、自分の言葉でまとめをさせることにより、学んだ実感をもつことができるようにする。 EO ●学習感想を書かせて本時を振り返る。

児童の実態として、「算数が好きな児童が○人」とか、「進んで発表できない児童が多い」など、教科に対する情意面や授業の全般的な実態等だけにとどまっていることはないでしょうか？ 本単元で生かしたい子どものよさや既習の定着の程度等をつかんでいるからこそ、指導観で具体的な手立てを明らかにすることができます。

P5を参考にし、具体的な手立てを「～により…ようにする」の形で書きます。

自力解決のために既習のどんな考え方を使うのかが分かります。

つまづいている子どもがどのように課題解決を図るのかが分かります。

力をさらに伸ばす発展的な考えにつながる手立てとなっています。

多様な考えがあることに気付かせるために、どのように比較検討して課題に迫るのか、具体的にしたい。

「自分の考えと比べてどう思ったか」等、どのような感想を書かせるのかの視点がほしい。

必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

学習課題設定のポイント・・・



「与える、教え込む」から、子どもの意欲や考えを「引き出す」教師の構えが大事です。

「今日のめあては〇〇です。わかりましたか？それでは自分で考えて」・・・このような導入で、教師の「教えたこと」を子どもの「学びたいこと」に変えることができるでしょうか？ 思考力・判断力・表現力等の育成には子どもの主体的な姿勢が重要なポイントになります。そのためには、教師の一方的な課題提示ではなく、子どもの「問い」を引き出し、学習課題につなげていくことが必要です。

「問い」を引き出すために・・・



子どもの「問い」を課題につなげましょう。

資料等の提示や活動の設定の工夫

子どもの「問い」を学習課題につなげる発問

<例>

- 資料を少しずつ見せる。
一部を隠して見せる。
→ 資料の先を予想させる。
- 複数の資料を比較（対比）させる。
→ 違いを問う。
→ 変化を問う。（before after の対比）
- 事象（現象）の理由を考えさせる。
→ 事象（現象）の特徴をおさえ理由を問う。
- Black Boxによる提示や結果一覧から決まりを見出させる。
→ 規則性を問う。
- 既習から未習へ移ることで新たな疑問を生む。できる→できる→あれ？
- 分類したり類別したりする活動の中で似て非なるものを提示することにより、迷い（問い）をうむ。
- 条件を加えて負荷をあたえたり、無理難題を言ったりすることで解決への意欲を高める。



- 「ということは、みんなが調べたいことは？」
- 「ということは、今日は何を考える必要がありますか？」
- 「みんなの疑問を整理すると□□という課題になるけどどうですか？」
- 「Aさんの疑問いいですね。それをみんなの課題にしようか？」

具体的な学習課題の例は、次のページをご覧ください。

- ※ 本時の目標と整合性が図られているか十分に吟味しましょう。
- ※ 子どもの思考の流れに添うように学習課題を設定しましょう。

教師による学習課題設定だったとしても・・・

日々の授業において、必ずしも毎時間、子どもから「問い」を引き出し学習課題につなげることができるとは限らず、教師が学習課題を提示することも考えられます。また、技能教科においては、「～しよう」という行動目標になってしまうこともあると思います。

しかし、そのような場合においても、次のように発問を工夫することで、学習課題を学習の主体である子どもたちのものとして意識させるようにすることが大事です。

- 「前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましよう。」
- 「今日は、学級全体として〇〇というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいでしょうか。」
- 「では、それぞれにどんなことに気を付けて学習するかを考えてみましょう。」

課題解決の見通しをもたせましょう。

子どもが自分で見通しをもてるようにしましょう！

- 解決方法の見通しをもたせる。
→ 「こうすればできるんじゃないかな？」「この方法が使えそうだな？」
- 答えの見当をつける。
→ 「こうなりそうだな。」「だいたいこのくらいになるかな。」
- 課題について、調べる視点をもたせる。
→ 「このあたりから調べれば分かりそうだ。」
- 課題解決に向けた、学習活動の道筋をつける。
→ 「初めに～をして、次に～をして、最後に～をすれば、解決できそうだ。」



その学習課題、ちょっとした工夫で変わります！

◇ 子どもから問いを引き出し、解決の必要感から設定した課題

<小学校1年 算数「たしざん」>

本時の目標が、「 $4 + 8$ の計算の仕方を考えることを通して、被加数を分解して計算する方法について理解する。」である時、下の2つの学習課題のうち、児童の学習意欲を喚起し、しかも本時の目標に直結する学習活動が予想されるのはどちらでしょうか。

A「 $4 + 8$ の計算のしかたを考えよう」

B「どちらに10のまとまりをつくらうかな」

Aは、どのような四則演算でもよく見られる学習課題です。しかし、本時では、Bを問うことによって既習と異なる方法があることに気付かせることができ、ねらいに直結する学習活動が期待できます。

問題 たまごは あわせて なんこですか



どちらを10にしようかな。

算数においてBのような学習課題を作るには、教科書のキャラクターのつぶやきが参考になります。

<小学校5年 体育「ゴール型ゲーム」>

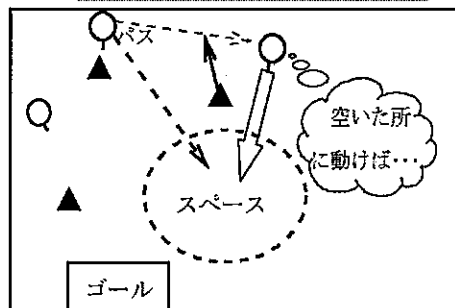
T 前の時間のパスはどうだった？

C パスをすると相手にとられた。

C あまりボールをもらえなくて、ゲームにならなかった。

T パスをもらう側はどんな工夫をすればいいかな？

そこで、学習課題を「どこに動けば、うまくパスがもらえるだろうか。」と設定します。例えば、「パスのもらい方を工夫してゲームをしよう」と教師が一方的に提示するよりも、学習内容（空いた場所に素早く動くこと）について主体的に思考させ、運動させることができます。



技能を中心とした教科であっても、工夫することで子どもの問いを引き出して必然性のある課題を設定することができます。

<中学校1年 数学「正負の数」>

問題 バスケットボール部員8人の身長を、いろいろな方法で求めてみましょう。

A : 153 cm B : 148 cm C : 152 cm D : 155 cm
E : 150 cm F : 159 cm G : 147 cm H : 152 cm

問題をそのまま課題にしていけないでしょうか。

問題と課題は区別して提示したいものです。

「～について考えよう」の課題から脱却し、「なぜ～」「どのように～」など、子どもの問いのある課題を設定しましょう。

何を考えるか学習内容を示唆する課題を設定することが大切です。

上のような問題を受け、最初に小学校で学んだ身長の合計を人数で割る方法で答えを出します。その後、Aのような課題を設定する場合と、さらに小学校で行った「仮の平均」を定めて計算する方法があることを振り返り、Bのような課題につなげる場合があります。

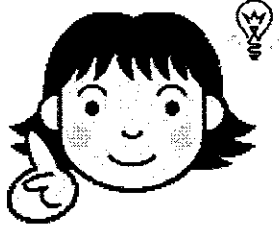
A「もっと簡単に求める方法を考えよう」

B「どのように仮の平均を設定すると簡単に求められるだろうか」

Aは、漠然としていて、生徒自身がどのような学習をすればよいかととらえにくい課題です。それに対してBの課題は、仮の平均をどのように設定すればよいかを学習することが課題の中に示されています。また「仮の平均を最大値と最小値の間に設定することで正負の数が活用でき、簡単に求めることができる」というまとめとの整合性がとれる課題となっています。

思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

○ 子どもが自分の考えをもつときって？



- (1) 課題の意味や発問の意図が分かったとき
- (2) 考える視点や方法が分かっているとき
- (3) 考えるための手がかりがあるとき
- (4) 考える時間があるとき（間）

○ 思考を促す発問って？

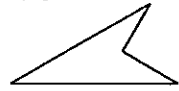
子どもの考えを揺さぶる
 これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
 「～だったよね。でも、～なのはど
 うしてだろう。」

考えを照らし合わせる
 子ども相互の考えを予想したり、再生したりさせる。
 「Aさんの言葉の続きを言えるかな。」
 「Bさんの考えていること分かりますか。」

分類や比較をさせる
 調べたことや友達の考え等の間にある相違点や共通点を見つけ出させる。
 「AさんとBさんの考えのにているところはどこかな。」

関連付けさせる
 分かった事柄の間に、どのような関係があるのかを考えさせる。
 「分かったことをつなげると、どんなことが言えるのかな。」

葛藤を生む
 これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
 「これは、三角形と四角形のどっちですか。」



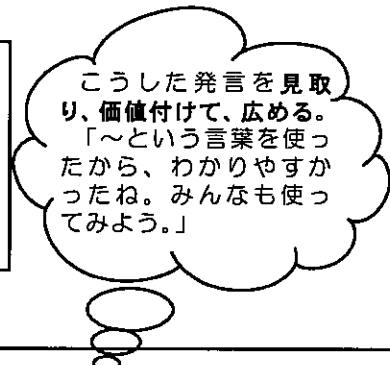
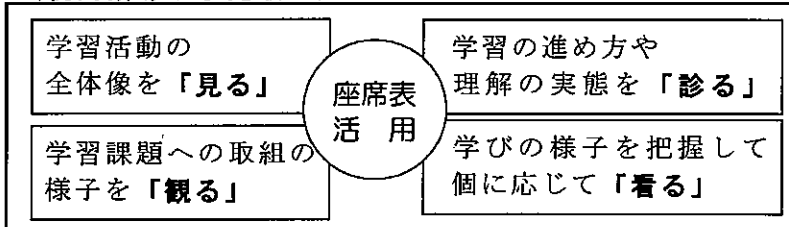
矛盾・対立を生む
 考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
 「みんなは同じって言ったけど、～というところが違うんじゃないかな。」



多面的に見させる
 新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
 「もし、～だったらどうなるだろうか。」

○ どうやって見取るの？

〈机間指導から見取る〉



〈子どもの発言から見取る〉

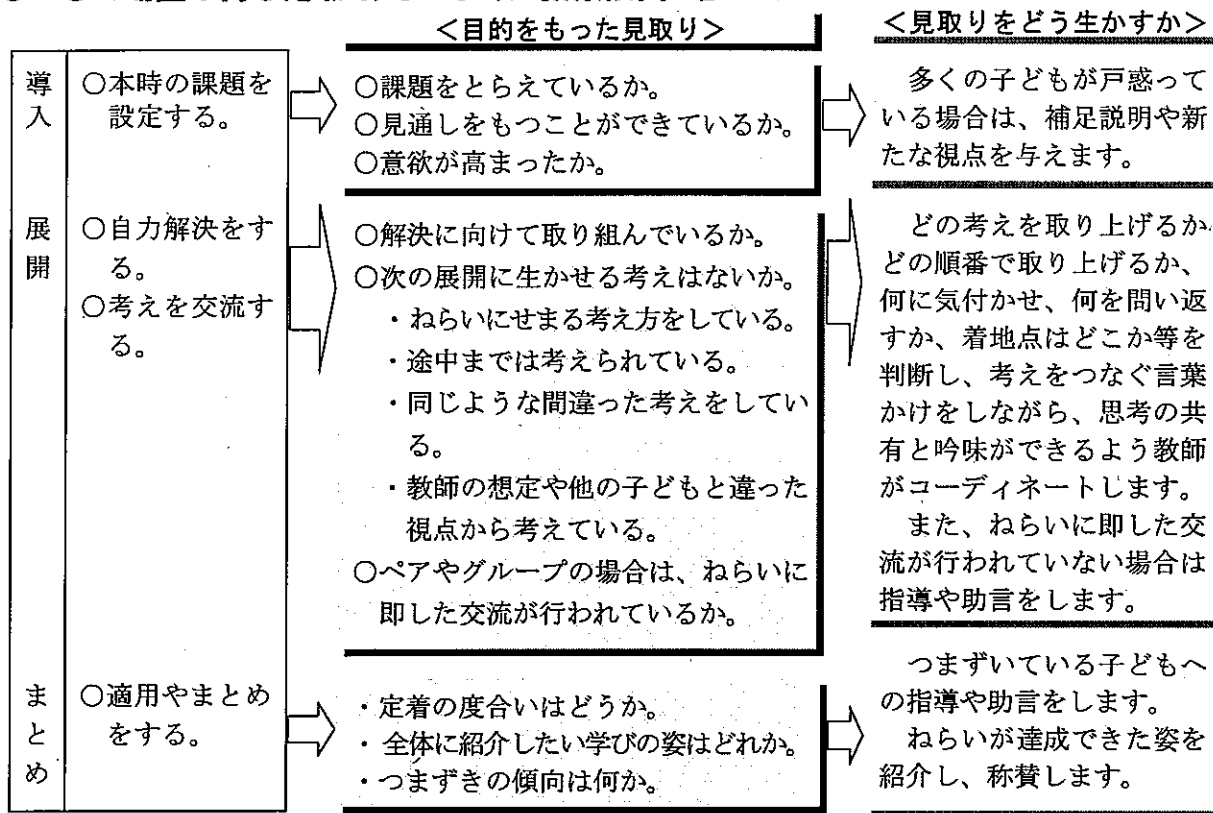
子どもの言葉から見える思考力	・「〇〇が～したのは、～だからなんだ」	理由付け
	・「〇〇と□□を比べると、～が違う」	比較、相違
	・「〇〇と△△には、～というきまりがある」	規則性
	・「～ということから～ということが言える」	類推 など

〈ノートやワークシートから見取る〉

- ・ 自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を確実に見取り、授業展開に生かす。
 - ・ よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。
 - ・ 授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。
- (ノート指導はP. 13を参照)



○ **どの場面で何を見取り、どのように授業展開に生かすの？**

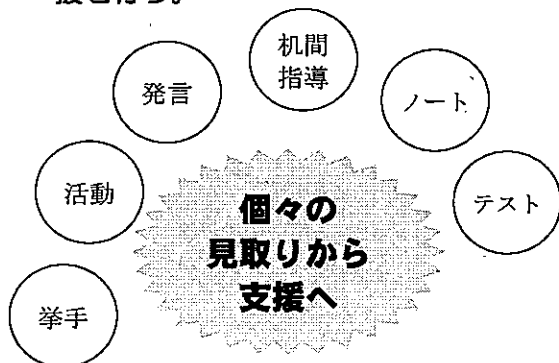


(思考の共有と吟味、教師のコーディネートについてはP. 11・12参照)

○ **机間指導の留意点は？**

- ・ たた巡視するのではなく、目的をもって机間指導を行う。
- ・ 時間をかけすぎないよう時間を決めて机間指導を意図的に行う。
- ・ 「分からない」「できない」も受け止め、次の段階で解決できるよう構想し、指導を行う。

◇ **様々な機会を一人一人を把握し、個人差を受け止め、個に応じた支援を行う。**



学習速度が速い子どもへの支援

- 見直し：解き方や解答を再確認
- 別の方法の発見：多面的な見方や考え方の育成
- 発展問題への挑戦：
意欲の醸成と思考力・応用力の育成
- 教え合いの支援者：理解の深化

学習速度が遅い子どもへの支援

- 一人での追究：確実な理解
* 正答率が高く慎重な子どもに適している
- 教え合いの被支援者：他の子どもからの学び
* 「教える側」と「教えられる側」を固定化させない配慮
- 個別の支援：自らの気付き
* 口頭によるヒント等を与える

作業速度に応じた支援

- 早く終了した場合の指示や約束事
例 「教科書や資料集を読む」
「大切なところに線を引く」
* 子どもが自分で判断しながら学習を進めることができるように

興味・関心や得意分野などを生かした支援

- 子どものよさを見付け、全体に広げる
例 「○○さんは、みんなが気付かなかったことをまとめているので、紹介してくれるかな」
* 一人一人に有用感をもたせられるように

思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

学び合いを通してめざす子どもの姿



「よし、同じだ。これでいいんだ」 (確信)
 「そうそう、そうなんだよ」 (共感)
 「あれっ、なんか違うな。なぜだ？」 (吟味)
 「ということは、こういうことか」 (再構築)
 「もしかしたら、こうかもしれない」 (推理)
 「だったら、こうしたらどうかな」 (創意)

◎ 仲間と考えを共有したり吟味したりすることを通して自分自身の中で対話が生まれ、新たな自分の考えをつくり出すことが「学び合い」の目的です。

大切にしたい基本

発問：めざす子どもの姿を想定して、中心発問を吟味する。

学習活動：子どもの意識の流れに沿った学習活動を工夫する。

机間指導：子どもの考えを的確に見取って、学び合いの見通しをもつ。

『〇〇さんの考えから入って、
 □□さんの考えを関わらせて深め、
 △△という考えに着地させよう』

構造的な板書の工夫

◎ **学び合いを可視化する。**

- 話し合いの論点や視点を書く。
- 板書で思考を刺激して深める。
 (書く位置、空白の部分、色チョーク文字の大きさ、心情曲線 など)
- 子どもたちの発想を表現する。
 (KJ法、ブレインストーミング、ウェビングマップ、ランキング など)
- 子どもたちの考えや発言を類型化する。
 (ベン図、マトリックス表 など)

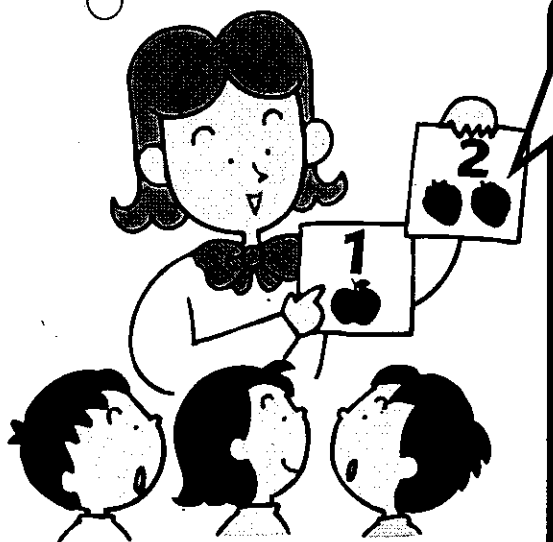
教師の言葉かけ

◎ **考えをつなぐ言葉かけ**

「～さんのよいところはどこですか」 (発見)
 「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」 (推測)
 「～さんの考えはどういうことですか」 (要約)
 「～さんの考えの続きがわかりますか」 (予想)
 「～さんの気持ちがわかりますか」 (共感)
 「ヒントが言えますか」 (補助)
 「～さんの考えをとなりどうして説明してみましょう」 (再生)

◎ **論理的思考力を刺激するつなぎ言葉**

「だとしたら…」 「たとえば…」 (膨らます)
 「つまり…」 「…をもとにすると」 (深める)
 「もしかすると…」 「でも…」 (広める)



聴き方をほめて育てる！

- ◎ しっかり聴いて反応している。
 (うなずいている、つぶやいている、笑顔になる、首をかしげる、目を見開く)
- ◎ 参考になる内容をメモしている。
- ◎ 発言や発表の内容を確かめている。
 「たとえば～ということですか？」 など
- ◎ 説明者にアドバイスしている。

目的をもったグループ活動とは？

- ◎ **練り上げてよりよい意見にする。**
 例) ノートを見せ合いながら説明する。
 → 良い所に印を付ける。
 → 考えをつないでまとめる。
- ◎ **出てきた多様な考えを整理する。**
 例) 付箋紙に書き出す → 発表しながら分類する → 傾向や規則性を考える。

子ども主体の学び合いで思考力を高める

こんなやりとりに
なっていませんか？



教師：実験から何が分かった？
 生徒A：電力は電圧の大きさに比例します。
 教師：他にないかな？
 生徒B：電流の大きさにも比例します。
 教師：じゃあ式で表すと？
 生徒A：電力＝電圧×電流で表せます。
 教師：そうだね。みんな、いいかな？
 A・B：は～い！

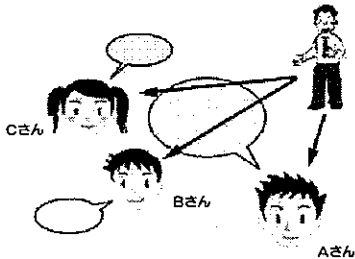


生徒C：よく分からないけど…まあいいか。

一問一答型では、指名されなかった子どもが「傍観者」として時間を過ごすことになりがちです。子どもの実態を踏まえつつ、子ども主体の学び合いの中で一人一人の思考力を高めることを目指して教師のコーディネートを見直してみましょう。

教師のコーディネート例

意図的指名型

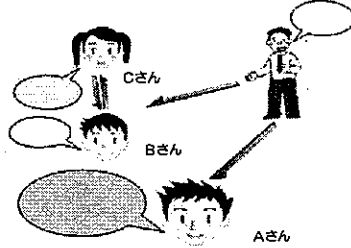


一人一人の考えを把握し、それをどのように組み合わせるかを考え指名する。
 個人の考えを広げたいときや練習を深めたいときに行う。

【発問の例】

- (似た考えの) Bさんは、Aさんが、そう考えた理由を言えますか。
- (違う考えの) Cさんは、二人の考えをどう思いますか。

ペア対話型

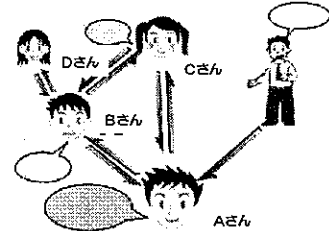


全員に理解させたい大切な部分で行う。隣同士で互いに説明したり相談したりする。再生させることで、より確かな定着を図る。
 内容によってはペアでなく小集団で行ってもよい。

【発問の例】

- Aさんが言ったことをお互いに説明してみましょう。
- Aさんの意見についてどう思うか、お互いに自分の考えを言ってみましょう。

子ども主体練習型



教師の問いかけに子どもが自主的に考えを出し合う。教師は調整役になる。

「意図的指名」や「ペア対話」による学習を経験し、そのよさを実感することで実現できる。

【発問の例】

- みんなは、Aさんの考えをどう思いますか。
- Aさんの考えを踏まえると、どのような結論が得られるでしょうか。

授業の中では、これらを瞬時に
行うことが求められます。

常に「よく聴く」ことを心がけ、どのように
「つなぐ・もどす」かを考えましょう。

コーディネートの流れ

把握

授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話をしているときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞いているときの姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿がなぜ生じているのか、その原因を考える。授業の進み方、説明の理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像してみる。

選択

もう一度説明するのか、子どもを指名して説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。指導の手立てを多くもっている必要がある。

実行

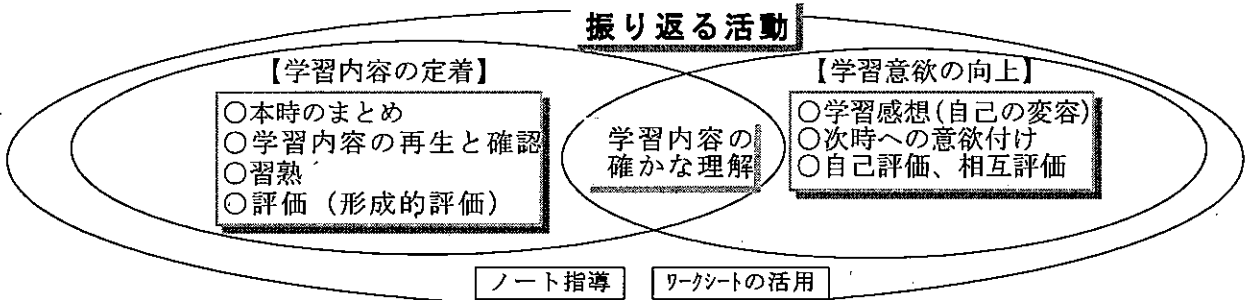
どのような言葉で発問・指示するか、誰を指名するか等の配慮をしながら次の指導を実行する。

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実



「振り返る活動」の意義

- ◎ 本時の学習内容を確実に身に付けさせることができる。
- 自己の変容や成長を自覚することにより、充実感や満足感を味わわせるとともに、次時への学習意欲を高めることができる。
- 適切な評価により、評価結果を指導に生かすことができる。



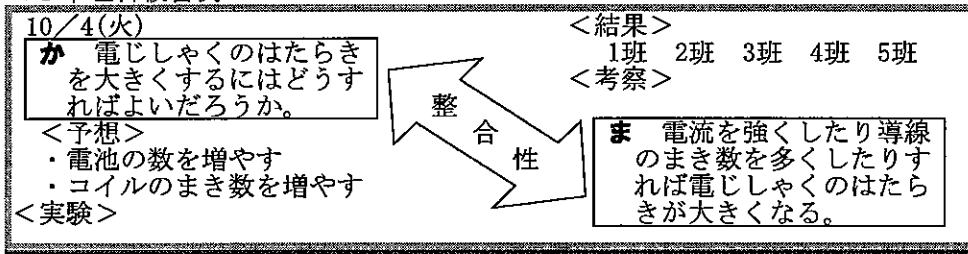
振り返るポイント

(1) 学習内容の定着

ア 本時のまとめは、**課題との整合性**を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。

- 例 ○ 板書で学習内容を振り返りながら教師と一っしょにまとめる。
- キーワードを示して子ども自身がまとめる。
 - 子ども自身が本時の学習内容を振り返り自分自身の言葉でまとめる。

<5年理科板書例>



- イ 解決された内容を再生して確認したり、習熟の機会を設けたりしながら、学習内容を定着させる。（※再生の例・「電じしゃくのはたらきを大きくする方法を隣の友達に一つ話そう。」）
- ウ 本時のまとめに関連した問題を出して評価し、結果に応じて補充指導を行う。（形成的評価）

(2) 学習意欲の向上

ア **学習感想**を書く際には変容をとらえる視点（できるようになったことや工夫したことなど）を明確に示し、**よさや自分の成長を自覚**させる。（1）のアとは違う視点から書く。

イ 発展的な内容を意図的に取り上げたり、まだ、解決されないことは何かを考えさせたりして、**次時への意欲付け**を図る。

学習の足跡が残るノート指導



ノートは、学習の足跡が残る大切なものです。学んだことを確実に身に付けるために、また、復習などにも役立つように次のような指導をしてはどうでしょうか。

- 発達段階や教科の特質を考慮して、共通理解をしたノートづくりの指導を行う。
- 板書を写すだけでなく、どこに、何を書くのか、教科に応じて具体的に指導する。
- 色鉛筆やボールペン等の使い方を決める。また、消しゴムの使用を制限し、思考の足跡を残させる。
- 意図的にノートを評価し、よい点を称賛する。問題点については具体的に改善点を示し励ます。

形成的評価

- めざす児童生徒の姿を明確にした評価規準を学習過程に設定し、学習状況を多様な方法で評価する。
- 評価結果に基づいて子どもの学習を支援したり、学習活動を変更・改善したり、指導方法を改善したりする。

自己評価や相互評価

- 評価する必要性を実感させる。
- 初めは評価の観点や項目例などを示す。
- 文章で書く評価も取り入れる。
- 評価活動を肯定的に認め励ます。
- 時期と方法を計画的に設定し、継続する。

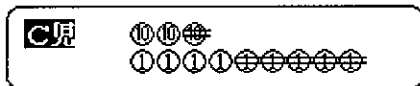
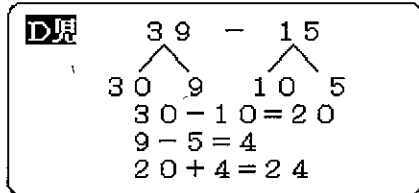
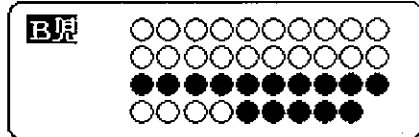
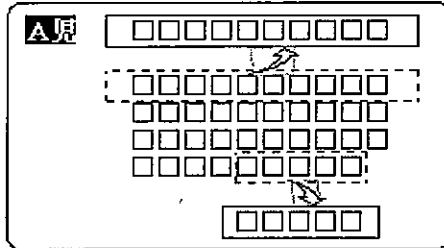
本時のまとめの充実が授業の決め手!!

< 小学校2年 算数「ひき算のひっ算」 >
 【学習活動】39-15の計算の仕方について考える。
 【児童の解答例】



あなたのまとめ
 はどのパターン?
 子どもに力がつく
 まとめ方はどれ?

まとめの時
 間をしっかり
 確保していま
 すか?



まとめの例1

練習問題をして終わる授業(特に、まとめを板書しない。)

まとめのない授業に
 なっていませんか?



まとめの例2

学び合いによる共有と吟味の中で、A~D児の考え方について理解を図った後で、

- T: いろいろな考え方があることが分かったね。
- では、今日の学習で分かったことや感想をノートにまとめましょう。
- T: まとめたことを発表しましょう。
- C: いろいろな考えがあって、おもしろかったです。

教師がまとめをせ
 ず、児童の言葉や感
 想だけのまとめで、
 終わっていることは
 ないでしょうか?



本時で学習した
 ことがおさえ
 られていない...

まとめの例3

A~D児の考え方について共有と吟味を行った後で、

- T: Dくんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。どれも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、Dくんのように十の位と一の位に分けて計算するといいいね。
- T: (まとめを板書)「2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算すればよい」
- T: では、練習問題をやりましょう。(答え合わせをして、授業終了)

本時の課題の1問
 だけでまとめ(一般
 化)をしていること
 はありませんか?



まとめの例4

A~D児の考え方について共有と吟味を行った後で、

- T: どの考えも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにDくんの考えが簡単にできそうだね。いつでもその考えが使えるか、Dくんの考えで「68-24」(類題)を解いてみよう。
- C: なるほど、Dくんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するといいつでも簡単にできます。
- T: (まとめを板書しながら) 2けた-2けたのひき算は、
- C: 位ごとに分けて計算すればよい。
- T: では、練習問題をやりましょう。(適用問題をする)
- T: 今日の学習で分かったことやよかったことをノートに書きましょう。
- C: 図を書くのは大変なので、これからは位ごとに分ける方法を使って計算しようと思いました。
- C: はじめはブロックを使ったけど、位ごとに分けて計算する仕方が分かったので、それを使って練習問題が全部できました。
- T: とところで、43-19のような計算はできるかな?
- C: あれ? 位ごとに分けただけでは計算できない...。(次時の課題へつなげて、授業終了)

まとめをする前に類
 題を解き、一般化を図
 りたい。また、類題を
 解くことで友達の考え
 に実際に触れ理解を深
 めさせたい。

児童の言葉を生かし
 ながらまとめを行い、
 学習内容や自分の成長
 について振り返りをさ
 せたい。



3 学習基盤づくり

学級・学習集団づくり

こんな学級・学習集団にしたいな～

- 明るく、楽しく、笑顔いっぱい
- 思いやり、優しさ、温かさ
- 一人一人のよさ・違いを認め合っている。
- ルール、規律を大切にしている。
- 互いの頑張りや失敗を認め、励まし合うことができる。
- 互いに支え合い、刺激し合い、高め合っていくことができる。

一人一人が大切！

存在感がある！

生き生き！
伸び伸び！



- ☆ 安心感・・・規範意識と好ましい人間関係
- ☆ 存在感・・・互いに尊重し合う態度
- ☆ 向上心・・・前向きによりよいものを目指す心

「学級・学習集団づくり」は、授業づくりの基盤です。「子ども」「教師」「全体」の3つの視点からよりよい「学級・学習集団づくり」について考えてみましょう。

子どもに育みたいこと

一人一人を育てることが、互いに学び合う学級・学習集団につながります！

- 目標実現のために困難を乗り越え、自主的に行動できる集団を目指すことが大切です。
- 「聴く」態度が重要です。
 - ・ 多様な意見や価値観を認めて真剣に聴く態度
 - ・ たとえ間違えてしまっても笑わない態度
- 熱心に聴いてもらえるから、考えを伝えようと相手意識をもって一生懸命に話す態度が育ちます。
- 互いに相手を意識し、尊重する態度が大切です。
 - ・ 時には、折り合いをつけるために自分を抑えることも必要



教師（担任）が心がけたいこと

教師の姿勢が子どもを導きます！

- 一人一人のよさを生かし伸ばすために「承認、奨励、称賛」の機会を見付けて実践しましょう。
- どんな時、絶対に許さないのか？褒めるのか？一貫した指導がとても重要です。
 - ・ ぶれない指導方針
 - ・ 集団に秩序を与え、集団の一員としての役割を果たそうとする態度を育てる教師の姿勢
- 自主性・自立性の育った集団を目指し、発達段階に合わせて意図的な指導を継続しましょう。

全体で取り組みたいこと

学校の体制づくり、そして、教師集団の同僚性が問われています！

- それぞれの学級経営方針を明確にし、全職員で共有しながら組織的に関わる体制を整えましょう。
- 互いの学級経営に対して、気軽に意見が出し合える雰囲気も大切です。
- 教師が子どもと向き合う時間を日課表の中に位置付けるなど、学校全体として「学級・学習集団づくり」のための環境を整備することも大切です。

先生方の意識が学級・学習集団を変えます

私たち教師は、教職経験の年数にかかわらず、子どもたちとの関わりの中で、「この子どもたちにとってどんな先生であるべきか。この子どもたちのために何をすべきか。」等の決意や願いを抱き、持続させることが大切です。

さあ、子どもたちと共に歩む姿勢を示し、温かい人間関係で結ばれた学級・学習集団づくりに努めましょう。

あたりまえのことをあたりまえにしていますか！ 振り返ってみましょう！

☆ 一人一人の子どもを大切にしましょう！

- 一人一人のよさを認め、そのよさを伸ばすことに努めていますか。
- 子どもを信頼し、よき相談相手になるよう努めていますか。
- 子どもは、最初はできないのが当たり前という意識で接していますか。
- 子どもの考えや意見等を、まず認めて価値付けていますか。
- 子どもが、先生に「見守ってもらっている」「理解してもらっている」と思えるように、日常の声かけや支援を工夫していますか。



☆ 子どもの間違いは宝です！

- 子どもの間違いを共感的に受け入れていますか。
- 子どもたちの間違いを生かすことにより、「みんなの役に立てた」という充足感をもたせていますか。

☆ 集団の中で成長を実感させましょう！

- 学習課題にみんなで最後まで粘り強く取り組み、解決したり、みんなで一つのものを協力して作り上げるなどの経験をさせ、集団の中で成長していく大切さに気付かせていますか。



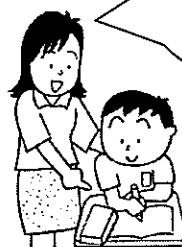
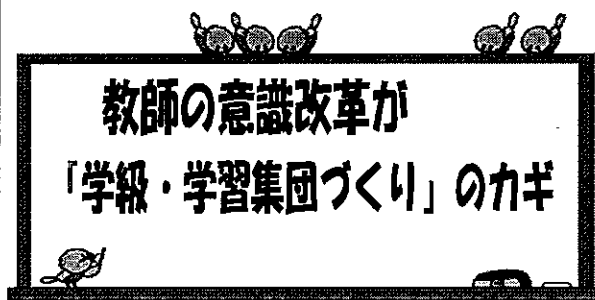
☆ 安心して学べる学級・学習集団には規律があります！

- 授業で子どもたち全員が気持ちよく学ぶためのルールを明確にしていますか。
- 子どもたちに「なぜ」「どのように」それをするのか等、ルールの意味を理解させていますか。
- 子どもが規律を破ったときや、子どもが表現したものに対して、周りが冷やかしたり、笑ったりしたときには、毅然とした指導をしていますか。

うなずいて話を聞いてくれるから話しやすいね。
安心して何でも話せるね。

☆ 子どもを褒めたり認めたりする方法を考えましょう！

- 褒めて伸ばすことの大切さを意識していますか。
- 子どもの結果だけを見るのではなくプロセスを大切にし、その努力を褒めていますか。
- 子どもちょっとしたよい変化や見えない努力を、見逃さず褒めようとしていますか。
- 直接褒めることに加えて、他の教師を通して間接的に褒めたり認めたりしようとしていますか。



〇〇さん、この文章表現がすごくいいね。

主体的な学習につながる基盤づくり

子どもたちが主体的に学習に取り組むようになるには、学習の基盤づくりが大切です。そのため、私たち教師は、その基本的な内容を共通理解し一貫した取組が必要になります。
 主体的な学習につながる基盤づくり（以下学習基盤づくりと表記）に必要な内容はたくさんあります。限られた時間の中でどこから取り組めばよいのでしょうか。

「何を取り上げるの？」

県学力調査の意識調査や各学校で行っているアンケート調査等で学習基盤の実態把握をし、学習基盤づくりの重点をきめましょう。その上で学年の系統性を考え共通実践事項をきめて全学年で取り組ましましょう。



□学習規律

□学習の仕方

□個に応じた学習相談

学習基盤
づくり

□基本的生活習慣

□機能的な教室環境

□読書活動の充実

□家庭学習の充実

□グループ学習の進め方

□学習用具の準備と整理

□.....

実態把握

計画

実践

評価・改善

・県学力調査の生活・学習意識調査の分析
・アンケート調査

今までの取組の振り返り

問題点の把握

改善策の話し合い

共通実践事項

・学年の系統性を考えて
・発達段階に応じて
・担当者をきめて

実践

・家庭との連携
・学期ごとの振り返りと改善
・具体的指導
・称賛

・県学力調査
・アンケート調査

反省・改善事項の検討

<例 家庭学習の充実について学年主任が話し合いをしています。>

本校の家庭学習の時間は全国平均より上回っています。子どもたちは、家できちんと復習を行っていると思いますが、国語と算数が共に全国平均以下です。授業に集中して取り組む子どもも多いと思いますが、何に問題があるのでしょうか。授業でしょうか。家庭学習でしょうか。

授業については、現職教育部の方針で行うこととして、ここでは、家庭学習について話し合いましょう。

家庭学習の中身に問題があるのではないですか？ドリル的な内容中心で、子どもたちはやらされている感じが強いのではないのでしょうか？

なるほどいいアイデアです。ところで、家庭学習で子どもたちががんばったことをほめることが大切だと思いますが先生方の学年ではどうでしたか。

みなさんの意見はとてもいいですね。では、子どもたちと保護者に家庭学習に関する意識調査をしてはどうでしょうか。先生方にも取組状況等をアンケート調査してみましよう。

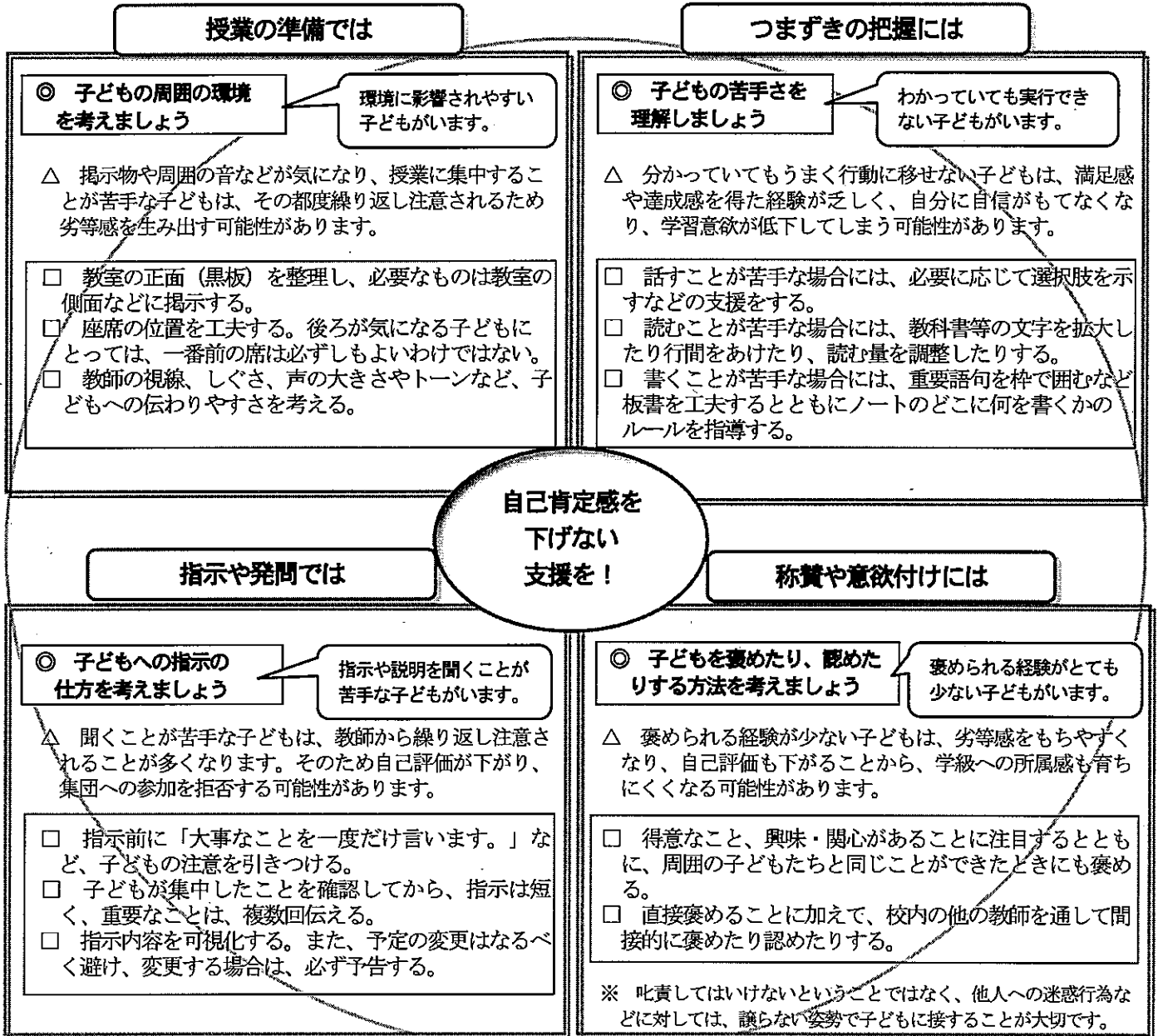
そうですね。みなさんは何が問題だと思えますか？

もっとあります。私たちの学校では、家庭学習の仕方を学年の系統性を踏まえて指導していません。例えば、学年の系統性を明らかにした家庭学習の手引き等を作成し、子どもと保護者に配付する方法はどうでしょうか。そうすれば、子どもたちは家庭学習の仕方がわかり見通しがもてると思います。

私は、朱書きをしていましたが、検印だけのときもありました。朱書きで励ますと子どもたちの意欲が高まります。

一人一人の子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～全ての学級に生かせる特別支援教育の視点～

教師が対応に苦慮する子どもは、子ども自身も学びにくさや生活しにくさを感じながら学校生活を過ごしています。子どものよさや可能性を引き出すためには、自己肯定感を下げない学校生活を送ることができるようになることが大切です。そのためには、育ちを見守りつつ、自立を目指した適切な指導と必要な支援をバランスよく行い、過不足ない働きかけを継続していきたいものです。以下に支援のポイントを紹介します。これらの支援は、周囲の子どもにとっても有効な働きかけになります。



◇ 保護者と連携するためには ◇

授業中の子どもの様子を伝える前に、まず、保護者自身をねぎらう言葉かけをしてみましょう。保護者の願いや困っていること等に耳を傾けるとともに、授業中に支援した内容・方法を伝え、うまくいったこと、うまくいかなかったことを共有しましょう。

また、保護者との共通理解のもと、一貫性のある指導をすることが、結果的に子どもの社会性を養い、将来の自立につながることを様々な機会を通して繰り返し話し合ひましょう。

保護者が不安になる教師の「ことば」

- 「困っています」
- 「どうしたらいいか専門家に聞いてください」
- 「忙しいので・・・」
- 「他の子もいますから・・・」

話し合った内容は「個別の教育支援計画」に記入し、就学時や進学時等の引継ぎに活用しましょう。



連続性を意識した幼小中の接続へ

～「幼稚園教育」の視点から～

幼稚園教育で育まれたことが、次のステージ(小学校)にもつながり、さらに積み上げられて、着実に成長する子どもの姿をめざしたいとみんなが願っていると思います。

幼小中の接続がさらに効果的に実施されるために、小中学校を意識した幼稚園での取組を紹介します。幼小中連携を踏まえた今後の取組についてそれぞれの小中学校で再検討していただければ幸いです。

幼稚園の取組

接続のポイント

1 幼児の生活や学びの連続性を踏まえた指導計画の改善・充実

- 小学校の行事等への参加や授業参観等、幼小の連携を意図的・計画的に行っている。
- 保護者とコミュニケーションをとり、家庭・幼稚園の生活の関連性・連続性を踏まえた保育を展開している。
- 幼児による話し合い活動を積極的に取り入れた遊びや幼児の主体性を育む環境づくり等、小学校へつながりを配慮した保育計画を作成している。
- 「気付き」を大切に遊びを活用し、小学校の生活科を意識した保育をしている。

学びや人格形成は幼児期から始まります！

幼小の育ちと学びをつなぐ「接続カリキュラム」をつくると意図的な支援ができます。

2 幼児同士の言葉による思いの伝え合い

- 教師が、人間関係の育ちを意識し、友達との関わりがもてるように支援するだけでなく、幼児自身の表現を促す伝え合いの機会を意図的に作っている。
- 幼児が様々な体験の中で、感動したり、友達と心が通ったりする経験を通して自分の思いを言葉で表現する場や機会の確保に努めている。
- 友達のがよかったところを言葉を使って紹介するなど、互いを認め合える学級づくりを意図的にしている。

心ゆさぶる体験が表現力を高めます！

幼少期の様々な体験が豊かな情操を培い、言葉による表現力を高めます。

3 幼児が主体的に体を動かす心地よさを体験できる遊び

- 体を動かす気持ちよさを体験させるために、体を使った遊びができるよう遊具を工夫し、季節に合う遊びができる環境づくりに努めている。
- 様々な工夫を凝らした環境を考え、幼児が協同して遊べる活動を取り入れ、課題である運動量の不足の解消に取り組んでいる。
- 室内でも十分な運動量が見込める活動を積極的に取り入れている。

運動量の十分な確保が、健全な発育につながります！

幼少期の運動が、健康な体をつくれます。今、幼少期の運動不足が課題になっています。

4 幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の工夫・活用

- 特別な支援を要する幼児について関係機関との連携を図りながら個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、保育する園が増えてきた。
- 具体的な指導事例を基に教師相互の意見交換等しながら幼児一人一人のよさや発達を認め、適切な見取りをしている。

一人一人の見取りが教育効果を高めます！

幼稚園の情報を小学校でも共有することが大事です。

幼小中の接続を意識した教育活動をさらに生かしていくためには、幼稚園での幼児の実態を知った上で、小中学校での教育活動を進めることが重要になります。生活の連続性や発達、学びの連続性を幼小中それぞれの教師が理解し、指導に生かすことが指導の効果を上げることにつながります。行事や授業を参観する交流はもちろんですが、一番大事なのは、教師間の交流だと考えます。幼小中の先生方が一緒に集まり、子ども一人一人の情報交換を通して、幼小それぞれの指導観や指導法を互いによく理解し、指導の連続性を保つことが大切です。

幼小中それぞれの指導、保育を知ることが大切です！

中高の学びをつなぐための課題と連携の在り方 ～高等学校の視点から～

他校種との学びの接続を考えたとき、中学校と高校の間には大きな違いがあるように感じます。高校生の発言から読み取れる学習環境上の問題点や生徒の立場に立った接続上の課題を整理し、中高の学びをスムーズにつなげるための方策を考えてみましたので紹介します。

1 高校生の気になる発言から見えてくるもの

【高校生の気になる発言】	【背景】
「勉強の仕方が分かりません。どうやって勉強したら良いですか？」	目的をもった主体的な学習、自学自習の習慣が身に付いていない。与えられた課題による学習、塾等の影響。
「課題がまだ終わっていません。もう少し待って下さい。」	部活動や通学時間等のせいにする傾向が強い。先を見据えた計画的な学習が苦手。やらなくても何とかできるという意識。
「授業の進度が速くてついて行けません。」	説明を聞きながら板書を写すことに慣れていない。 ※進度が速い学校の数学は教科書2.5冊/年ペース
「今日もノートに書くんですか？プリント学習にしてください。」	プリント学習（空欄に書き込む⇒ファイリング）に慣れ過ぎていて、自分のノートを活用した自学自習ができない。
「もっと簡単な解法はないですか？面倒な計算したくないです。」	安易に効率性を求める風潮。苦勞した先に得られる学習内容の本質的な理解の体験が足りない。
「毎日の家庭学習時間ですか…？え～と、0時間です。」	家庭学習をしたことによる授業内での成功体験の不足。家庭に学習するスペースがない生徒も。

合格発表後の学習課題を期限までに提出できない生徒が見られます。中には、意図的にページを飛ばして提出する生徒も…。

家庭学習と授業をリンクさせる工夫が必要。

2 生徒から見た中高接続上の段差

これらの段差に対し、生徒が**困り感**を感じていれば、その段差を低くするための中・高双方の**配慮**が必要です。

中学校	段差	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書事項をノートに写す時間を確保してもらえる ○ 具体物の提示、情報機器や教具を用いて学習内容の理解を助けてもらえる ○ ペア学習やグループ活動など、生徒同士の話し合い・活動の場がある ○ 授業の中でも課題解決の時間を十分に与えられる ○ 個別指導は場所を指定され、複数生徒と一緒に参加することが多い（教師に呼ばれることが多い） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生の話聞きながら板書事項をノートに写す場面が多い ○ 黒板やプリント（平面上）での図示による説明が多い ○ 先生による講義形式の授業が多い ○ 家庭での予習、事前の準備が求められることが多い ○ 職員室でのマンツーマンでの個別指導が頻繁に行われる（自分が教師に申し出ることが多い） 	<p>家でどんな勉強したらいいんだろう…。一人じゃ勉強できない～！</p> <p>予習をしないとついていけない…</p> <p>週末課題が終わらない！普段からもっと計画的にやっておけば良かった…</p> <p>高校の授業の進度は速いなあ。先生の説明を聞きながらノートをとるのも大変…</p> <p>質問したいけど、こんなこと聞いたら叱られるかなあ…</p> <p>この他にもこんな変化があります。 ・授業の進度 ・板書の字の大きさ ・課題の出し方（日々題・週末課題？、学年主導・教科主導？） ・問題集の形式（書き込み・問題のみ？） ・辞書（紙・電子？） …etc</p>

3 中高それぞれの校種における授業改善に向けての課題

〈中学校〉

- ・教師主導の授業で、生徒の考える（伸びる）時間（機会）を奪っていないか
- ・素材を十分に生かした授業構想か
- ・授業のリズム、テンポは適切か
- ・退屈している生徒はいないか
- ・効果の伴わないペア学習、グループ学習をしていないか

〈共通〉

- ・生徒の思考に沿った授業をしているか
- ・単位時間の授業のねらいとまとめの整合性は図られているか

〈高校〉

- ・教師の一方的な説明に終始していないか
- ・教室全体の雰囲気と生徒の表情を見て授業をしているか
- ・生徒に守らせたいことを共通実践できているか（例 寝ている生徒をそのままにしているか）
- ・自分の授業の振り返りをせず、中学校のせい、勉強しない生徒のせいにしていないか

これらの中高の学びの段差や校種ごとの授業実践上の諸課題により、自己肯定感が低いまま高校に入學してくる生徒も多くなっています。高校では、『**学校設定科目**』(※)に小・中学校の学習内容の振り返りを設定し、「分からなかったものが分かる喜び」を味わうこと、つまり“学び直し”を通して、生徒の困り感を解消し高校の学習内容につなげていく取組を行っている学校もあります。

(※) … 学校や生徒の実態等に応じて、必要がある場合には、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすることを規定しており、その工夫の一つとして、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした学校設定科目等を履修させた後に、必修教科・科目を履修させるようにすること(総則第5款の3の(3)のウ)が示されている。このため、こうしたことも踏まえながら、学校や生徒の実態等に応じた適切な学校設定教科・科目を開設することが重要である…

(高等学校学習指導要領解説 総則編p36)

4 高等学校における『学校設定科目』を活用した具体的な学び直しの取組例

- (1) 入学時の基礎学力の把握 … 新入生への課題テスト、外部の学力診断テスト等の活用の実施
 - 個及び全体の学習状況の分析、個々の誤答分析。生徒のつまずきは教師のつまずきであることを認識し、生徒目線で指導方針を立てる。
 - 分析結果を年間指導計画に反映させる。
- (2) 授業における課題プリントや定期考査等での基礎・基本問題の反復練習
 - ある程度できるようになったら、時間制限を設けたり、問題数を増やしたりして、より高いレベルの課題に取り組もうとする意欲を喚起 → 課題への集中力の高まり
 - 小テストの形式の工夫 … 良問をA5版表裏、10分程度を反復練習
- (3) 1学年中間考査の重要性
 - 「やったらできた！」(壁を乗り越える)という経験 → 学びの軌道へ
- (4) 課題テスト、定期考査等の間違えた部分の徹底的な復習
 - … 「ミスをしたくない」から「なぜ間違えたのか」へ
- (5) 自校の生徒の実態に応じた学び直し教材の作成
- (6) 生徒個々の学習カルテの作成 … 前の校種の学習内容の到達度を把握できるもの
- (7) 朝学習の実施
- (8) 「校内検定」や「〇〇コンテスト」の実施
 - 等級に難易度分けした国数英の課題やコンテスト形式の課題に定期的に挑戦させ、その生徒の学力に応じた達成感と成績の伸長度を実感させる。
- (9) その他
 - 職員室での個別指導 … いろいろな先生からの声かけが生徒にとって何よりの励まし
 - 力のある生徒に対する各教科によるチーム支援、可能性の引き出し
 - … 核になる生徒がいると集団の雰囲気も変わる

5 中高の学びの段差を低くするための中学校における指導の工夫

- (1) 生徒の発達段階に応じて、教師や友人の話を聞きながら板書事項をノートにまとめる授業形態を意図的に取り入れる。
- (2) 一定量のまとまった課題を、自分で立てた学習計画に基づいて実践し、やり遂げたという成功体験を味わうことのできる学習場面を設定する。達成できなかった生徒には、教科担当者による学習相談を実施し、個別指導で対応する。家庭と連携しながら物事を最後までやり通すことの大切さを伝える。
- (3) 自分の力で解決できないような疑問点や学習内容については、授業終了後や昼休み、放課後等を利用して自ら教師に質問するよう促すとともに、それが可能な校内の学習環境を整える。
- (4) ただ課題を与えていくのではなく、生徒自らが課題を設定した探究的な学習の場面を取り入れる。
- (5) 生徒自身に自分が集中できる環境(場所)を見付けさせ、乗り越えるべき課題に一人で向き合う習慣を身に付けさせる。

6 中高連携の在り方

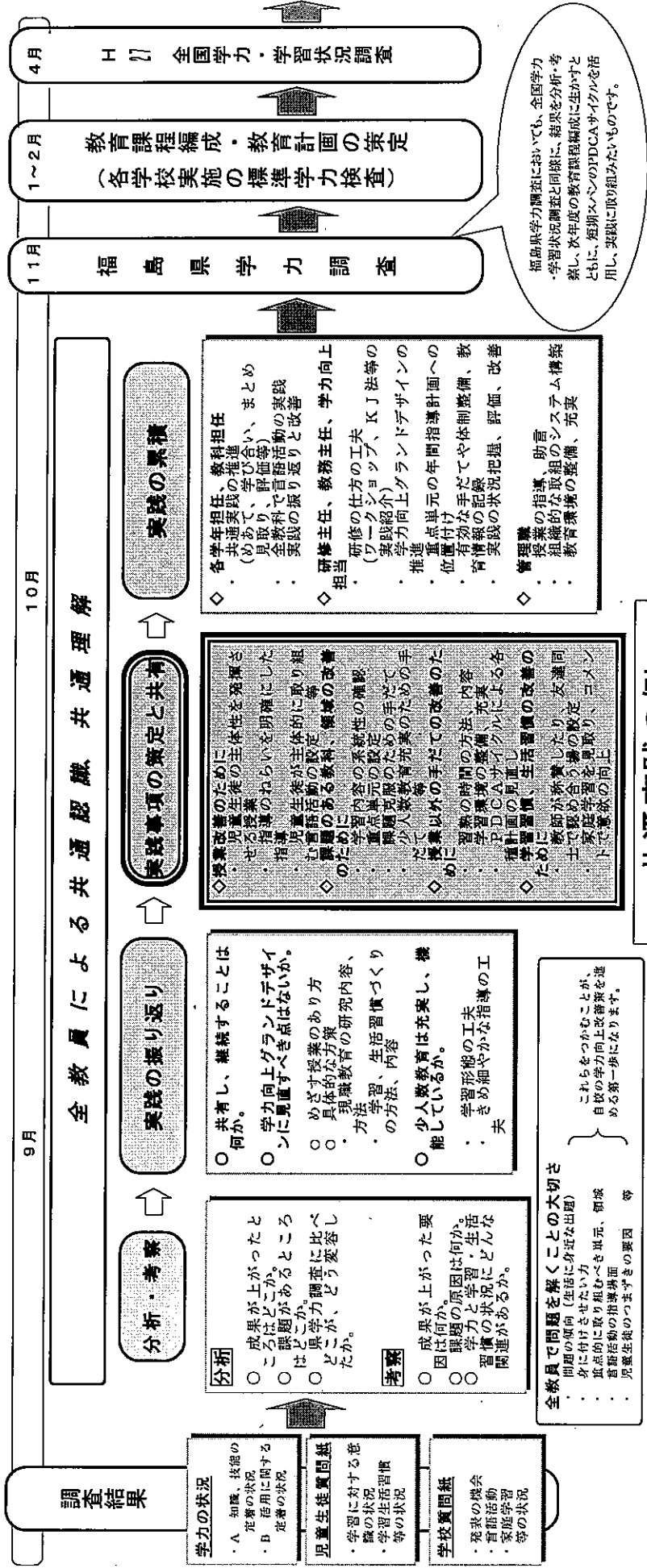
- 生徒を**送り出す責任、受け入れた責任に使命感**をもち、困っている生徒の立場になって具体的方策を考えることが出発点になります。
- 隣接する中学校・高校間での取組から始め、個々の生徒の進路選択や地域全体の学力の向上、さらには**双方の教員の指導力向上に結び付くよう連携の内容を工夫**する必要があります。
- 中高の教科書の内容を系統的に理解し、**互いの校種を意識した意図的な授業展開**を取り入れましょう。
 - 中： 「高校では～なるよ」「この続きは高校で」「なぜこうなるのかは高校で詳しくやります」
 - 高： 「中学では～だったけど、高校では…」 「中学生の解法でも考えてみよう」

「なぜこのくらいのこと分からないの？小(中)学校でやってきたでしょ！」

思わず心の中で叫びたくなる場面もあることでしょう。しかし、今私達の目の前にいる子どもたちは、『昨日は分からなかったけど、今日の先生の説明を聞けば分かるかも…』と期待しながら登校してきたのかもしれません。前の校種での子どもたちの学びを理解し、次の校種(ステージ)で活躍する子どもの姿を思い描きながら、子どもたちの「学びたい」「知りたい」という期待に応えられる質の高い授業をつくりあげましょう。

5 全国学力・学習状況調査の結果を受けて

福島県教育庁県北教育事務所



9月

10月

4月

全教員による共通認識 共通理解

実践の振り返り

- 分析**
- 成果が上がったところはどこか。
 - 課題があるところはどこか。
 - 県学力調査に比べてどう変わったか。
- 考察**
- 成果が上がった要因は何か。
 - 課題は何か。
 - 学習・生活・人間関係の状況にどんな関連があるか。

- 共有し、継続することは何か。
- 学力向上プログラムデザインに勇直すべき点はないか。
 - めざす授業のあり方
 - 具体的な方策
 - 現職教育の研究内容、方法
 - 学習、生活習慣づくりの方法、内容
- 少人数教育は充実し、機能しているか。
- 学習形態の工夫
 - きめ細やかな指導の工夫

これらをつかひながら、全体の学力向上改善策を進める第一歩になります。

全教員で問題を解くことの大切さ

- 問題の傾向(生徒に身近な問題)
- 身に付けさせたい力(力強い力)
- 重点的に取り組むべき単元、領域
- 学習活動の指導場面
- 児童生徒のつまづきの要因等

◇ 授業改善のために児童生徒の主体性を発揮させる指導
 ◇ 児童生徒のねらいを明確にした指導
 ◇ 児童生徒が主体的に取り組むための授業の工夫
 ◇ 授業改善のために児童生徒の主体性を発揮させる指導
 ◇ 児童生徒のねらいを明確にした指導
 ◇ 児童生徒が主体的に取り組むための授業の工夫

実践事項の策定と共有

- ◇ 各学年担任、教科担任(めあて、評価活動の実践見取表等で振り返りと改善)
- ◇ 研修主任、教務主任、学力向上(ワーキングセッション)の実践向上
- ◇ 推進重点単元の年間指導計画への位置付け
- ◇ 有意味な手記
- ◇ 実践の状況把握、評価、改善
- ◇ 管理職
- ◇ 授業の指導、助言
- ◇ 組織的な取組のシナジー構築
- ◇ 教育環境の整備、充実

実践の累積

- ◇ 各学年担任、教科担任(めあて、評価活動の実践見取表等で振り返りと改善)
- ◇ 研修主任、教務主任、学力向上(ワーキングセッション)の実践向上
- ◇ 推進重点単元の年間指導計画への位置付け
- ◇ 有意味な手記
- ◇ 実践の状況把握、評価、改善
- ◇ 管理職
- ◇ 授業の指導、助言
- ◇ 組織的な取組のシナジー構築
- ◇ 教育環境の整備、充実

調査結果

- 学力の状況
- A 知識、技能の定着の状況
 - B 活用に関する定着の状況
- 児童生徒学習意欲
- 学習に対する意識の状況
 - 学習生活習慣等の状況

学校質保証

- 発達の機会
- 学習活動
- 家庭学習等の状況

福島県学力調査においても、全国学力・学習状況調査と同様に、結果を分析・考察し、次年度の教育課程編成に生かすとともに、短期スパンでのPDCAサイクルを活用し、実践に取り組みたいものです。

授業改善に「ついで」ではなく、所定で進めたいという意識を育ませ、学力向上の「力」を育てていくことが大切。

学習形態の工夫

つまづきやすい単元には、T、I、T指導や習熟度別学習を取り入れるなどして、個に応じた指導を充実させる。ペア、グループでの話し合い等の学び合い活動は、そのねらいを明確にし、児童生徒の思考を深めるようにする。

年間指導計画の完全実施と改善

年間指導計画を計画通り完全に実施する。また、各学校の課題に基づき、学習内容の系統性を確認し、重点単元として年間指導計画に位置付ける。

各教科における言語活動の充実

次の2点を特に意識して言語活動を設定する。

- 指導のねらいを明確にする。
- 児童生徒が主体的に取り組む。

具体的には、次の点に配慮する。

- 1 多くの生徒に発言させる機会を設ける。
- 2 「問い」の形にする。
- 3 思考を促す発問
- 4 発言をつなぐ働きかけ
- 5 思考する時間の確保
- 6 生徒同士の交流の確保(ねらいを明確にする。)

適習・習熟の時間の充実

教科や学習内容に応じたことにより、本時・終末段階等で適習問題に取り組ませ、最終的な学習内容を定着させる。指導と次の時の授業構想に生かす。

定着確認シートの活用

定着確認シートに取り組みやすい状況を作り、計画的に実施することにより、学習状況を確認するとともに、指導内容、方法を振り返る機会とする。

家庭学習の工夫・改善

家庭学習の手引き等を利用して、計画的に学習を奨励し、目を通されたノート等へ必ず目を通したコメントを書くことで学習意欲の向上を図るようとする。

< 参考文献・引用文献 >

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 中学校学習指導要領 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説（各編）
- 中学校学習指導要領解説（各編）
- 「授業をつくる16の視点」 福島県教育資料研究会
- 「日々の授業のブラッシュアップ Vol.1」
ー授業の基礎／基本「発問、板書、ノート指導」ー 福島県教育委員会
- 「日々の授業のブラッシュアップ Vol.2」
ー授業を支える「教材研究、学習指導案、話し合い、基本的な学習習慣」ー
福島県教育委員会
- 初等教育資料（平成25年度～平成26年度版） 文部科学省